

## 春岡村の伝説

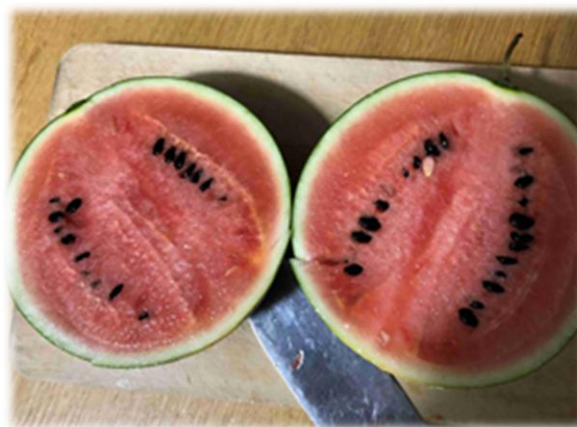
### ～このあたりにもあるハクビシンやアライグマ その1～

家庭菜園をやっている方はご存知の通り、今年も夏の味覚トウモロコシやスイカが何者かに食べ散らかされる被害があちこちで発生。明日は収穫、と思っているところを見事にやられてしまいます。このあたりでも電気柵で対策している農家も増えてきました。以前はカラスの被害が多かったのでネットを張るなどして上空からの襲撃に備えればよかったのですが、最近はハクビシンやアライグマによる地上からの被害が増え、ネットを張ったくらいでは、効果がありません。トウモロコシは実をへし折られ、押し倒され、スイカは穴を開けて中身をそっくり食べられてしまいます。丸ヶ崎新田のある農家では、昨年小玉スイカが50個もできたのに、27個食べられてしまったそうです。ヤツらにとっては、おかわり自由、食べ放題のレストランみたいなものなのでしょう。



### ～ハクビシンの恩返し～

昨年9月、稲刈りの終わった借りている田んぼの畦に、スイカのツルが伸びているのに気づきました。残暑の中、ツルはぐんぐん伸びて、そのうち黄色い花が咲き、たったひとつですが小さな実がつきました。どうやら小玉スイカのようなようです。獣たちに見つからないことを祈りながら、10月21日ついに収穫にいたりしました。砲丸投げの弾くらいの小さなスイカです。季節外れのスイカを恐る恐る割ってみると、中は見事に真っ赤で、それはそれは甘くて美味しいスイカです。おそらく、農家のスイカをたらふく食べたハクビシンかアライグマが、うちの田んぼの畦で糞をして、その栄養満点な糞から芽が出たのですから、そりゃあ、甘いに決まっています。美味しく食べた後は、タネをとっておいて今年畑にまいたところ、見事に実がつきました。敵に見つからないことを祈りつつ、収穫の日を待ちます。ハクビシンに「もとはと言えばオレのスイカだ」と言われても困るのですが。命名ハクビシンスイカ。



(東三番街 平山由喜)